

地域の協力のなかで伸びる子どもたちの積極性と表現力



糸島市の中心部、歴史ある前原商店街がすぐそばの前原小学校。児童数は約 740 人とマンモス校でありながら、授業や行事で地域の人と関わることも多く、学年を超えた交流も活発です。

商店街をはじめ、地域や保護者の協力のもと、授業にアクティブラーニングを多く取り入れているのも特徴の1つ。平成29年度から実施している「町探検」では、各学年の子どもたちがテーマを設定して地域や前原商店街を訪れます。地域の人と関わりながら魅力を見つけて伝えたり、課題解決の方法を考えたりします。子どもたちが能動的に学んだことは全校集会で発表したり、授業参観でプレゼンテーションをしたりなど、「表現する」ことにも力を入れています。

全国的にも珍しいのは、5年生の「職場体験」です。校区

内の51もの事業所が協力し、子どもたちは3日間の職場体験に行きます。働く大人の姿を目の当たりにする中で、自分の課題を見つける子どもたち。体験を生かして課題を克服したり、全校児童の前で学校生活をよりよくするための提案をしたりします。

また、学年を超えた交流の機会が多く「上級生が優しい」という子どもたちの声をよく聞きます。1年生には年間を通じて6年生がペアにつきまます。春は6年生に迎えられ、レンゲ畑で遊ぶなどの体験をする1年生。秋には自分たちが迎える側になって、翌春に新1年生になる保育園の年長児との「遊びの会」を企画しています。

前原小学校の子どもたちは人や自然とのつながりを肌で感じながら、積極性や表現力を養っています。



レンゲ畑で1年生と6年生の交流



地域との連携で行われる5年生の職場体験

